

# 議員団 ニュース

日本共産党平塚市議会議員団  
団長 渡辺敏光  
電話・fax 31-6431  
w:toshi@agate.plala.or.jp  
松本敏子  
電話・fax 59-4607  
mail@matsumoto-toshiko.jp

日本共産党平塚市議会議員団  
電話 0463-23-1111 (内線 2375)  
平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

日本共産党議員団の法律相談  
次回は9月13日です。  
午後1時 (要予約)

No.988 2008年7月20日発行

## 東部学校給食共同調理場 を市内「新日本婦人の会」と見学。

平塚市の学校給食は、小学校28校のうち、21校が共同調理場で、7校が単独調理場で作られています。また、中学校15校では牛乳給食のみとなっています。

昭和36年に市内の全小学校で給食が開始されましたが、その後、調理場施設設備の老朽化や、児童の急激な増加に対応するため、共同調理場方式を採用し、昭和47年に東部学校給食共同調理場を、更に昭和50年には北部学校給食共同調理場が開設され、今に至っています。

こうした中で、東部共同調理場は36年、北部共同調理場も33年という年月を経ており、今後建て替えを検討するうえでも、学校給食のあり方や方向性を考えていかなくてはならない時期が来ています。

また、平塚市の小学校給食費は月に3400円(1食205円)と、県内でも最低ランクを維持して来ましたが、今年度3700円(1食222円)に改定されました。

ところが、小麦粉や大豆・野菜などの値上がりで、給食現場はどうなのか・・・

松本敏子議員は、「新日本婦人の会」の皆さんと、東部学校給食共同調理場を見学してきました。



この日のメニューは、チンジャオロースとチンゲンサイのスープでした。

上記のメールアドレスまたは電話にて、皆さんからのご意見・ご要望をお寄せください。



↑ 地場産野菜は農薬が少なく安心。虫がいないか裏表とも1枚1枚丁寧に洗います。



↑ 給食をつくる様子を窓越しに見ながら、石村栄養士さんから説明を受けました。



↑ 給食はみんなの関心事。若いお母さんたちも子供を連れて見学に参加。

「新日本婦人の会」は、「一人ぼっちのお母さんをなくそう」と「親子リズム」や「赤ちゃん小组」を立ち上げて活動し、平和や教育問題など幅広く取り組んでいる女性団体で、この日は大人12人、子供10人が参加。

そこでは、今年赴任された石村栄養士さんから学校給食の概要を説明していただき、見学しました。

6月から7月にかけて野菜は1~2割値上がりしたとのこと。しかし、地場産の野菜は値の変動がなく、農薬の使用も少ないし鮮度もいい。大量に必要な共同調理場では使用するものが限られるが、単独調理場ならもっと利用できるだろうといいます。ここでは11校分の約5千食を調理していますが、野菜は3回洗い直します。「安心のためなら、手がかかるのはしょうがない!」という調理職員の意気に感動。

しかし、●調理時間や食中毒のリスクを考えて、毎日2種類のメニューを作っている●10時半に仕上げないと各学校への運搬が遅れる●スープなど冷めないように器を熱風で温めておく●ガソリンの値上がりなど運搬費用がかさむ●衛生管理の基準では調理後2時間以内に食べるよう努めることになっている●使用する地場産の食材が限られる・・・など大量調理のためのデメリットも多かったです。

母親の願いは、地産地消で安心・安全な給食であり、今後計画的に自校式に切り替えてほしいという声がありました。

# 青少年の非行化防止活動

## 青少年補導員の活動

平塚市では、青少年の問題行動の早期発見・指導は、非行化を防止する上で重要な施策のひとつであるとして、青少年補導員が中心になって、地域の関係団体や学校の先生たちとも協力し合い、繁華街や学校周辺地域など広範囲にわたって子どもたちの見守りと指導にあたっています。

委嘱されている42人の青少年補導員は専任青少年補導員とともに平日は毎日、駅周辺を6コースに分けて夕方下校時を見回っています。また毎年「七夕まつり」や「花火大会」「大盆踊り大会」「年末」の最中には、幅広い方々と連携して愛のパトロール活動を行い非行化防止に努めているのです。



夜にかけて、さらに賑わう「七夕まつり」

## 「七夕まつり」期間の「愛のパトロール」

7月5日、松本敏子議員は「七夕まつり」期間の「愛のパトロール」に参加し、現状を見てきました。

「繁華街」「ゲームセンター」「七夕まつりの外周」という風に分れ、「外周」の班に加わった松本議員は、夕方7時半から9時まで青少年相談室職員や青少年補導員の方々と巡回し、自転車の2人乗りや、未成年による喫煙、飲酒に注意を促し、公園などでは危険なことが行われていないかなど見て回りました。

そのあとの報告会では、自転車の2人乗り、未成年の飲酒・喫煙の報告が複数あり、酒に酔って動けなくなっていた若い女性を、補導員が救急車を呼び病院に運ばれたという報告もありました。

7月は「青少年の非行防止に取り組む全国強調月間」及び「社会を明るくする運動」強調月間といわれています。

相談室では、非行に走る子は人との交わりが苦手な子が多いといえます。だから、家庭ではもちろん、地域の子供たちにも声をかけて顔見知りになること、そして、まず「大人が見本になること」が大切であると説明されました。

これから夏休み、様々な行事が待っています。皆さん！地域の青少年の非行化を防ぐには、大人の力が試されている時です。

その活動拠点となっているのが「青少年相談室」です。今年度の組織改正で「健康・こども部」の管轄となった「青少年相談室」は市民センターの2階にあります。

この相談室の職員も月に2回の夜間の見回りや、学校・警察からの連絡を受けて活動しています。

また、月曜～土曜の昼間の10時から夕方6:30まで「ヤングテレホン」という青少年の悩みの相談も受け付けています。

# 「平塚のら猫を減らす会」が市の「情報宅配便」でフォーラム

「みんなのまち情報宅配便」は、市民が関心のあるテーマについて、市の職員が出向いていってお話しをするというものです。

これは市民と市職員がひざを交えて話し合うことにより、「みんなのまち」平塚のまちづくりを一緒に考えていこうという制度です。

7月13日、市民活動センターで「平塚のら猫を減らす会」が、環境政策課の課長はじめ担当職員に出席してもらってフォーラムを開催しました。この会に、松本敏子議員が参加して来ました。

「平塚のら猫を減らす会」は、猫の適切な飼養を普及・啓発させ、地域からのら猫をなくすために活動している団体です。人と動物が共生できるまちづくりを進め、無責任な飼い主によって猫が犠牲になることのないように里親を探したり、去勢・避妊手術をして繁殖を防ぐなど、地域の猫に関する苦情も一手に受けて活動してきました。

活動の趣旨が認められ、市民ファンドから補助を受けた経緯もあります。そうした長年の運動の中で平塚市でも「猫の不妊及び去勢手術の補助金制度」が昨年の10月から施行されました。

## 制度に対し「これではのら猫は減らない」「期待はずれ」の声

しかし、その助成要綱が「飼っている猫が対象」「年度内に1世帯1匹」となっているために、いままで自己負担で避妊・去勢手術をしてきた方々から、「これではのら猫は減らない」「期待はずれ」との声が上がっていました。

昨年の6月議会でこの問題が出され、その中で市は「成果は、実際野良猫が減ったか減らないかは、我々もなかなかつかめないところ。それで、当然そういったボランティアとして活動されている団体の方たちともコンタクトをとりながら、現状どうなのか、また結果はどうかという確認をすると同時に、動物保護センターに持ち込まれる数の推移を我々も確認したいと思っている。それが多分この補助制度における成果を確認するための唯一の方法なのかと考えている。」と答弁しており、この制度の効果を団体に確認しながら進めていくことになっていたのです。

「平塚のら猫を減らす会」の方々は、ようやくできた補助制度に期待していましたが、結果は野良猫の避妊・去勢には使えず、次々と野良猫が増え、個人の負担がかさんで窮地に立たされています。こうした結果を見ても、早急に要綱の見直しを図り、人も猫も安心して生活できる制度に切り替え、その結果をさらに検証することが求められているのではないのでしょうか。

